

7月は「愛の血液助け合い運動月間」

ち、ち、ち、
い、の、の、の、ち。



九州各县から届けられた血液

輸血用血液は毎日確保する必要があります

輸血用血液を毎日必要としている人は全国で約3000人、県内で約160人もいます。病気で健康な血液をつくれない人々、大量出血を伴う手術で体から大量に血液が失われたときなどに使われます。一番多く使われるのはガン治療です。

輸血用血液は100%献血でまかなわれており、献血によって、多くの尊い命が救われています。

輸血は100%献血が頼り

輸血用血液を毎日必要としている人は全国で約3000人、県内で約160人もいます。病気で健康な血液をつくれない人々、大量出血を伴う手術で体から大量に血液が失われたときなどに使われます。一番多く使われるのはガン治療です。

輸血用血液は100%献血でまかなわれており、献血によって、多くの尊い命が救われています。

沖縄県赤十字血液センター
献血推進課推進係 山内 清志 係長

新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で献血バスの配車キャンセルが相次ぎだため、4~5月は前年に比べ、特に400ml献血の献血者数が大幅に減少しました。那覇市内でもキャンセルは相次ぎました

は、短いものだと4日間しか保存することができません。かつ、血液は人工的に造ることができます。そのため、365日毎日、献血で輸血用血液を確保する必要があります。



が、「ゆいまーる精神」で「こんなときだからこそ協力したい」と声をあげてくださった団体もありました。ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。

しかし、新型コロナウイルスの影響は今後も続くことが予想されます。献血会場では検温、手指消毒、換気などの対策を実施していますので、患者さんに安定的に血液を届けるためにも、引き続き献血へのご協力が必要となります。

献血は、輸血を必要としている人にとっての「命綱」です。

しかし、若者の献血離れや、さらには新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛で、県内の献血は大変厳しい状況となっています。

そこで、沖縄県赤十字血液センターのスタッフさんから、献血の必要性について話を伺いました。



県内の多くの病院へ輸血を届ける

県民が県民を救う「自県自給」

沖縄県は九州ブロックとして、九州8県で輸血用血液をまかないあっています。コロナウイルスが流行する前の沖縄県は、他県に比べて安定した血液供給ができていました。しかし、今年度は大変厳しい状況にあり、他県から血液を分けてもらつて何とかするという「自県自給」という言葉を心に留めていただきたいです。

自分たちの県の患者さんの血液は自分たちで何とかするという「自県自給」という言葉を心に留めていただきたいです。

那覇市民のみなさんへ

現在、病院で苦しんでいる患者さんを救うためには、みなさんの協力が必要不可欠です。自分や家族、大切な人が輸血を必要とする時がいつかやってくるかもしれません。

「誰かがやる」とひとごとと思わずに、「明日は我が身」という意識を持っていただけたらと思います。

確かに献血は針を刺す際にチクッと痛みが伴います。しかし、その先には毎日病気と闘い続けている患者さんを助けることによって救われる命が必ずあります。

今後、ご自身の高校や専門学校、大学、会社、または街中で献血バスを見かけたら、少しの勇気をだして「命を救うボランティア献血」に参加してみませんか?

沖縄県 年代別献血者数



若い人の献血が年々減少中

沖縄県赤十字血液センター
献血推進課 真喜志 淳 課長

サンキュー
レター
Thank you letter

輸血を受けた方やそのご家族からのお礼の手紙の一部を紹介します。

息子は先天性的心臓病で、2歳と19歳の手術時に、2回輸血をしていました。息子は生まれてから今まで多くの方々の献血のおかげで、今は元気に学生生活を送っています。親として心から感謝しております。多くの方々が献血に協力していただけた事により、幸せになる家族がいる事を知っていた

1歳で輸血が必要だった息子は、何度も何度も何度もみながら頂いた血液で危機を乗り越えられました。血液は作れない、人の善意で成り立っていることを聞きました。今、このレターを読んでいらっしゃる方、今まで献血された方やこれから献血しようと思っていらっしゃる方へありがとうございます。痛いのに血を分けてください、感謝の思いでいっぱいです。